

やさしく守り、豊かな実りを。

小豆・いんげんまめ・大豆用除草剤

# パワーガイザー<sup>®</sup>液剤

- 雑草が出てから散布できます
- 一年生広葉雑草に高い効果
- 低薬量で高い活性を示します
- 豆類に高い選択性

 **BASF**

We create chemistry

未来の農業を豊かに実らせる、  
農業経営応援サイト

**minorasu**

実らす、農業のミライ



®=BASF社の登録商標

## ■ 散布適期(雑草茎葉散布又は全面土壌散布)

雑草発生前での散布は効果が劣りますのでさけてください。雑草発生始期～発生揃での散布が効果的です。パワーガイザー®液剤の作用発現はやや遅効的で、薬剤の散布後約1週間程度で、赤色褐変し、2～3週間で枯死します。

### ■ 小豆



### ■ いんげんまめ・さやいんげん



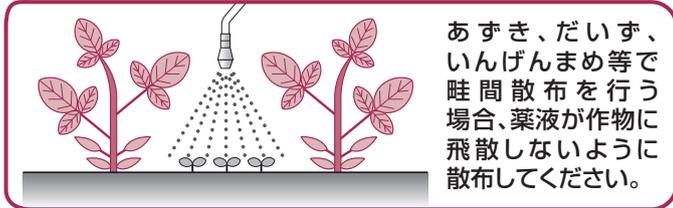
### ■ 大豆



※1 北海道でのだいたいの使用時期は、普及奨励ならびに指導参考事項(北海道農政部編)に準じて記載しております。

※2 注意事項:だいたいの初生葉展開期から1葉期までの散布は、葉に縮葉や褐変が生じ、一時的に生育が抑制されることがあります。

## ■ 上手な使い方(畦間雑草茎葉散布)



### 「パワーガイザー®液剤」をご使用の際の注意事項

- 周辺に飛散しないよう、ドリフト軽減ノズルを使用してください。また、風のある場合は散布しないでください。
- 少量の飛散で影響を与える可能性がありますので、豆以外の水稲、小麦、とうもろこし、てんさい、そば、ばれいしょ等周辺作物へ薬剤が飛散しないよう、散布の際には十分注意してください。

## 〈適用雑草の範囲および使用方法〉

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	イマザモックスアンモニウム塩を含む農薬の総使用回数								
			薬量	希釈水量											
あずき	一年生広葉雑草	出芽直前～出芽揃期 (雑草発生始期～発生揃期)	200～ 300mℓ/10a	100ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	2回以内 (畦間処理は1回以内)								
		生育期(雑草発生揃期～2葉期) 但し、収穫30日前まで						畦間雑草茎葉散布							
いんげんまめ	一年生広葉雑草	出芽直前～出芽揃期 (雑草発生始期～発生揃期)				200～ 300mℓ/10a		100ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	2回以内 (畦間処理は1回以内)				
		生育期(雑草発生揃期～2葉期) 但し、収穫30日前まで										畦間雑草茎葉散布			
さやいんげん	一年生広葉雑草	出芽直前～出芽揃期 (雑草発生始期～発生揃期)								200～ 300mℓ/10a		100ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	2回以内 (畦間処理は1回以内)
		生育期(雑草発生揃期～2葉期) 但し、収穫30日前まで													
だいず	一年生雑草	出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	200～ 300mℓ/10a	100ℓ/10a	1回		雑草茎葉散布 又は全面土壌散布							2回以内 (畦間処理は1回以内)	
		生育期(雑草発生揃期～2葉期) 但し、収穫30日前まで													
えだまめ	一年生広葉雑草	出芽直前～出芽揃期 (雑草発生始期～発生揃期)				200～ 300mℓ/10a	100ℓ/10a	1回	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布		2回以内 (畦間処理は1回以内)				
		出芽揃期 (雑草発生始期～発生揃期)													
おうぎ	一年生広葉雑草	出芽揃期 (雑草発生始期～発生揃期)							200～ 300mℓ/10a	100ℓ/10a		1回	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布		2回以内 (畦間処理は1回以内)
		生育期(雑草発生揃期～2葉期) 但し、収穫60日前まで													
甘草	一年生広葉雑草	出芽前(雑草発生始期)	300mℓ/10a	100ℓ/10a	1年間に 1回								雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	6回以内 (1年間に2回以内) (畦間処理は1回以内)	
		萌芽前～萌芽揃期 (雑草発生始期～発生揃期)													
		生育期(雑草発生揃期～2葉期) 但し、収穫60日前まで				畦間雑草茎葉散布									

### △ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使い切ってください。
- 本剤は著しい低温下では凍結、分離することがあるので、散布液調製時には解凍を確認した後よく振ってから使用してください。
- 展着剤は加用しないでください。
- 有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害のおそれがあるのでさけてください。
- 本剤は雑草の発生始期から2葉期にかけて高い効果を示しますが、雑草の生育が進むと除草効果が低下するので、使用時期を失ないように散布してください。

- 砂土では使用しないでください。
- 砕土や整地はていねいに行い、種子が露出ないように覆土はできるだけ均一、厚めに行ってください。
- 土壌が極端に乾燥している場合には、効果が劣るおそれがあるので適湿なときに、均一に散布してください。
- 処理後に降雨が予想される時には使用をさけてください。
- 初生葉期以降の散布では一時的な薬害の発生することがありますが、その後の生育には影響しません。
- 散布にあたっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用してください。

- 畦間散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると黄化症状の薬害を生じるおそれがあるので、作物に飛散しないように注意してください。
- 散布器具、容器の洗浄水および残りの薬液は河川等に流さず、空容器等は圃場に放置せず適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。



● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。● 防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2023年1月の知見に基づいて作成されています。